

誰もが快適に過ごせる、日本一の賑わい都市を創造

多様性と懐の深さ



「こんなたくさんの人たち、どこからやってきたんだ」

新宿駅にやってきた二男三男くんは、未だかつて見たことのない人の波を見て呆然としていました。電車到着するたび、南口の改札口からは切れ目なく乗客が溢れてきます。

二男三男くんの記憶に残る新宿駅も、今と同じように国鉄や私鉄が集まるターミナル駅でしたが、現在はガラス張りのビルや近代的な建物が建ち並び、大きく発展していました。しばらく歩いてみると、新宿観光案内所が見えてきたので、二男三男くんは、新宿区役所までの道を聞くことにしました。

カウンターのスタッフは笑顔で、新宿区の観光マップを二男三男くんに渡してくれました。ここには、「新

宿駅周辺」「四谷」「神楽坂」「高田馬場・早稲田・大久保」「落合」の5種類の観光マップを用意しています。多言語の観光マップも用意しているので訪日外国人にも便利です。

二男三男くんはまず、「新宿駅周辺」の観光マップを見ながら、新宿区役所へと向かいました。

子育て支援の充実で人口増加

新宿区役所の本庁舎は、かつての旧牛込区役所の場所から移転して、歌舞伎町にありました。1階で、窓口の職員に興奮した様子で新宿駅周辺の変貌を語った二男三男くん。「新宿区のことを知りたいです」と尋ねたところ区政情報センターに案内してくれました。区政情報センターで、

区の職員は二男三男くんの話に頷きながら、『新宿区人口ビジョン』と『新

新宿駅東南口の新宿観光案内所



宿区総合戦略「まち・ひと・しごと創生」を渡しました。

新宿区の人口は、二男三男くんが住んでいた1947（昭和22）年当時、戦争でたくさんの方が亡くなったため、疎開で東京を離れてしまったために20万人台まで減っていました。それが、高度経済成長期の1965（昭和40）年には41万3910人とピークを迎えます。その後、人口は減少に転じ、1995（平成7）年にはついに27万人まで減ってしまいました。

その後、新宿区が子育て支援の充実や賑わいの創出などに取り組みと徐々に人口は増加し、2015（平成27）年の国勢調査では33万3560人となり、今も増え続けています。



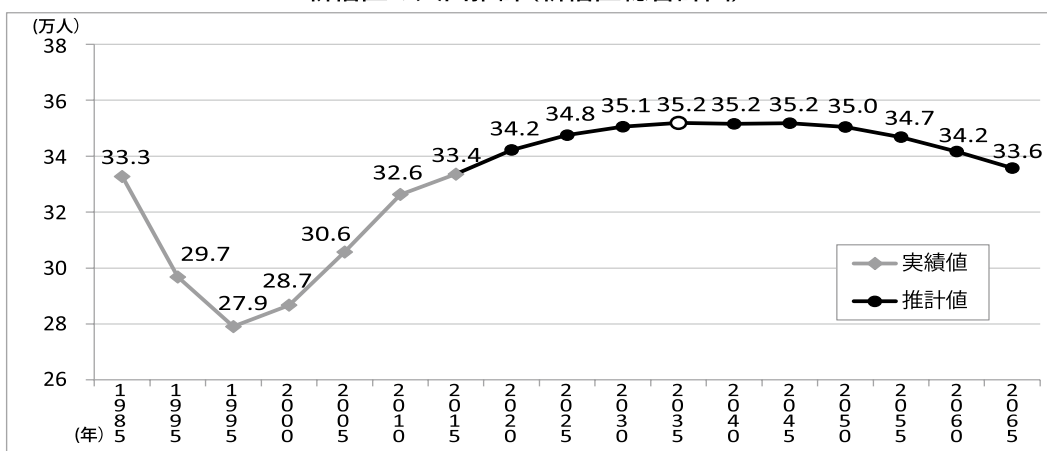
区が目指すべき将来の方向性

人口ビジョンでは、区が目指すべき将来の方向性として、①若い世代が安心して子育てをすることができ、まち②「新宿」の強みを活かす、誰もが住みたい、住み続けたいと思えるまち——を掲げています。

そして、将来展望について、「少子高齢化が着実に進行していくが、目指すべき将来の方向性の実現により出生率が現状の見通しより向上すること、将来の少子高齢化による年齢構成のバランス変化が緩やかなものになることが展望される」としています。

また、2018（平成30）年度からの10年間を展望する『新宿区総合計画』には、最新の人口推計が掲載されています。2015（平成27）年の国勢調査を基にした人口推計では、新宿区の総人口は当分の間、増加が続き、2035年に35・2万人でピークを迎えると予想されています。その後、2045年まで横ばいが続き、2050年以降、減少に転じ、2065年には33・6万人と、

新宿区の人口推計(新宿区総合計画)



2015年（平成27）年の人口とほぼ同規模になる見通しです。

二三男くんは「こんな便利でたく

さんの人が集まる街でも、人口が減ることがあるのか」と驚きました。

地域特性と5つの基本目標、誰もが住みたい、住み続けたいと思えるまちを目指して

『新宿区総合戦略』は、新宿区の地域特性を踏まえて、5つの基本目標を掲げています。

基本目標1では「賑わい都市・新宿を創造する」を掲げました。新宿区は多種多様な企業や人々が集積する「集客都市・新宿」です。この強みを生かして、まちの回遊性や利便性を高めるなど、都市機能を向上させ、快適な都市空間の形成や、みどり豊かな環境にやさしいまちづくりを進めるとともに、新宿の多彩な魅力を発掘・創造し、観光資源として発信していくことが求められるとされています。

基本目標2は、「地方と連携し共に発展する」としています。友好提携都市である長野県伊那市を中心に、それぞれの強みを活かした交流・連携を行っています。

基本目標3は、「子育てしやすい

まちとして選ばれる都市をつくる」です。少子化に対応するため、安心して子供を産み・育てることのできる環境整備に取り組んでいます。

基本目標4は、「心豊かに自分らしく生きることが出来る地域社会の実現」としています。新宿区は、高齢者や障害者などの全ての区民が個人として尊重され、それぞれの役割を担いながら、自分らしく生きることが出来る地域社会の実現を目指しています。このため、生涯にわたる心身ともに健康でいられ、住み慣れた地域で暮らし続けられるまちづくりに取り組んでいます。

基本目標5は、「高度防災都市化と安全安心の強化」です。都市空間の防災性の確保とインフラ機能の強化、高度な防災機能を備えた高度防災都市化の早期実現に向けて取り組みが必要があります。災害に強い、安全安心なまちづくりを行うことは、賑わい都市・新宿の創造と地方との連携や、暮らしやすさ一番のまちづくりの基礎となります。

この5つの基本目標を実現するための、具体的な取り組みをいくつか紹介します。

世界に注目され、誰もが自由に行き交う国際集客都市

二三男くんはまず、先ほど見てきた新宿駅周辺の発展に関心を持ちま



新宿駅東西自由通路の予想図（資料提供：東日本旅客鉄道株）

した。

「基本目標1 賑わい都市・新宿を創造する」では、基本的方向として、新宿駅周辺などの地域において、回遊性や利便性を高める都市基盤の整備を進め、より魅力的で歩いて楽しいまちづくりを進めるとしています。また、誰もが安心して楽しめる世界的なエンターテイメントシティとして歌舞伎町地区のまちづくりを推進すると書いてあります。

二三男くんが住んでいた時代の新宿駅も、1927（昭和2）年に乗降客が東京駅を抜いて日本一になるほど、全国有数のターミナル駅でした。現在では乗降客数が370万人を誇る世界一の巨大ターミナル駅に発展しています。

2016年4月に策定した「新宿駅周辺地域まちづくりガイドライン」によると、20年後をイメージした新宿駅周辺地域の目指す将来像について、「世界に注目され、誰もが自由に行き交う国際集客都市と世界と日本をつなぐ快遊都市へ」と掲げています。具体的には、①誰もが快適に回遊できる人中心のまち②国内・海外からの注目を惹きつけ、様々



ゴジラロードで行われた映画ジャパンプレミアムのイベント

な文化や賑わいが交差する国際観光商業都市③多様な機能の集積が魅力的なワークスタイル・ライフスタイルを提供するまち」と述べています。

「快遊都市」という言葉どおり、快適に回遊するための動線として期待されているのが、東京2020オリンピック・パラリンピック開催までの供用開始を目指す「新宿駅東西

自由通路」です。

終戦直後の新宿は、西新宿にはまだ淀橋浄水場がありました。二三男くんにとっての新宿の賑わいは、駅の東側です。都電が行き交い、二幸や三越、伊勢丹のある繁華街です。しかし、現在の新宿は、淀橋浄水場の跡地に超高層ビルの建ち並ぶ新宿副都心が現れ、その周辺でも再開発によって賑わいが生まれています。ところが、新宿駅やその周辺には東西を結ぶ通路が少なく、行き来が不便でした。

そこで、東西を結ぶ自由通路を整備し、人の流れを変えようという大きな事業が始まりました。

現在、新宿駅の西口と東口の間は改札を入らなければ通り抜けできませんが、駅構内の北通路を自由通路化し、幅員を広げます。これによって、西新宿の超高層ビル地区など西側の地域と、歌舞伎町地区や新宿駅東口地区など東側の地域との回遊性が高まります。

歌舞伎町ルネッサンスの取り組み

新宿の「賑わい」は、良いことば



かりではありませんでした。戦後は「東洋一の歓楽街」と言われた歌舞伎町は、かつて「暗い」「汚い」「怖い」といったマイナスイメージが強く、新宿のイメージダウンにつながっていました。そこで、新宿区は地元商店街、町会、民間企業、警察や消防など関係行政機関等と連携し、誰もが安心して楽しめるまちを再生する取り組みとして「歌舞伎町



歌舞伎町ルネッサンス 客引き防止イベント

ルネッサンス」を進めてきました。具体的には、地元商店街振興組合や警察等と連携した客引き防止パトロールやキャンペーン、防災・帰宅困難者対策、落書き防止対策、歌舞伎町アートプロジェクトなどの取り組みです。また、ビルの上からゴジラが街を見下ろすゴジラロード（セントラルロード）では映画のプレミアイベント



シネシティ広場で開催された「沖縄フードガーデン」

二三男くんは再度、新宿駅東南口にある新宿観光案内所を訪れました。冒頭、区役所に行くために見た観光マップは新宿駅周辺だけでなく、他にも四つのエリアの観光マップがあります。案内所のスタッフは「緑があつて落ち着いた場所なら落合、江戸の風情を残す横丁なら神楽坂、高田馬場・早稲田・大久保は学生や若者が集まるとともに、国際色豊かなエリアで賑やかですね。ああ、



トが開催され、2016（平成28）年4月にリニューアルオープンしたシネシティ広場では、社会実験として飲食・物販イベントなどが行われ、まちの新たな賑わいを創出しています。

「新宿力」で創造する、
「やすらぎとにぎわいのまち」

二三男くんは「この多様性に支えられた賑わいが、新宿区の大きな強みになっている。通勤・通学の人、観光客、住民、誰もが快適に過ごすことができる懐の深さは、これからは新宿区が守り、発展させていかなければならない」と確信を持ちました。「まずは夏目漱石のゆかりの漱石山房記念館を訪れてみたいなあ」二三男くんは、新宿の観光マップを持って、まちあるきへと出掛けました。

お客さんのように『過去からやってきて』歴史とかに興味がおありなら、四谷はいかがですか？多くの寺社があつて、あのアニメ映画の聖地もありますよ」と教えてくれました。最後のアニメのことは二三男くんにはよく分からなかったですが、それよりも世界有数の巨大ターミナル駅を持つ新宿区が、高層ビルに囲まれた場所ではなくて、自然や文化・歴史、居住、商業、娯楽など、多種多様な機能を持ち合わせた都市であることに驚きました。新宿は、近郊から電車通で通ってくる通勤・通学や、国内外からの観光客で賑わっているだけではありません。